

令和6年度「人権教育研究指定校事業」指定校事業報告書

委託先（ 福井県 ）

1. 調査研究のテーマ、概要

調査研究のテーマ	自分を大切にし、多様な価値観や考え方を持つ他者と共生する人権教育の在り方
----------	--------------------------------------

○調査研究のテーマを設定した目的

「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること」が人権教育の理念であるという認識に立つと、人権教育の出発点は、ありのままの自分を肯定できる感覚、他者との比較ではなく、自分の存在そのものに価値があると認め尊重できる感覚を児童たちが持つことであると考えます。

本校の児童は、授業や休み時間には明るく活発な様子が見られるが、定期的に行っている生活調査からは、自己肯定感の高い児童の割合は決して高いとは言えず、自分のことを大切に思う気持ちやありのままの自分に自信を持ってない児童が少なからず存在することがうかがえる。まずは、学びの原動力となる「自分が大切な存在である」という思いを、児童一人一人に持たせたい。そのためには、人権教育における指導方法の改善・充実を図っていく必要がある。

また、本県では年々増加している外国人に対して、外国人児童生徒の受け入れ等の教育支援など、多文化共生に対応した取組みを進めている。本校でも年々ブラジルをはじめ東南アジアなどの外国籍児童の転入が増えてきており、日本語指導の充実などを行っている。しかし、本校の児童は小さいころから外国籍の子どもたちと一緒に過ごしているにも関わらず、ポルトガル語などの外国語や異文化などについてはほとんど知識がなく、学校生活を共にしながらも、お互いのことについて理解が進んでいない現状がある。

児童が社会人となる近い将来において、様々な文化を持つ国の人々と協働する機会は今以上に増えていくだろう。よりよい社会をつくるために、児童たちに異文化を尊重する態度や異なる習慣・文化を持った人々と共に生きていくための素地を作っていきたい。この学びは外国人だけでなく、国や性別を超えて児童が学校生活や日常生活の中で、自他を共に認め合いよりよい人間関係を築いていこうとする態度を育むことができると考える。

以上のことから、本研究は、児童が自己肯定感を高め、多様な価値観等を尊重して、様々な人々と共生しながら豊かな人生を切り拓いていけるような人権教育の在り方を探究することを目的とした。

○調査研究の概要

「外国人」を柱に据えた人権教育の推進を図る。推進の際には、「学習活動づくり」「人間関係づくり」「環境づくり」といった3つの観点が一体となった取組が重要である。本研究は、前項で述べた目的を達成するために、この3観点から人権教育の在り方について調査する。具体的には、「自己肯定感を高め、自他を尊重する授業の展開」「人権意識を高める体験活動の工夫」「家庭・地域における人権意識の向上」「異文化理解の促進」の4つを柱として研究を推進し、「自分を大切にし、多様な価値観や考えを持つ他者と共生する」児童を育成する。

2. 基本情報

研究指定校の概要

○学校名

鯖江市鳥羽小学校

○これまでの研究指定等の状況

令和5年度人権教育研究推進事業（研究指定校）

○学級数

16学級（うち特別支援学級：2学級）

○児童生徒数

全校児童：410人（令和6年4月1日現在）

○URL

<http://www.sabae.ed.jp/~el-toba/>

○指定理由

鯖江市では、「男女共同参画プラン」を作成し、女性が活躍しやすい社会に向けて、男性の理解と意識改革の推進に取り組むとともに、学校教育ではSDGsを理解する学習を取り入れることにより、自己肯定感を高め、他者理解を深めながら、互いに認め合い励まし支え合う学級づくりが行われている。

鯖江市鳥羽小学校は、市内で外国籍の児童の割合が高い学校である。その現状から、多様な価値観や考え方を持つ他者との共生の研究推進を目指している。児童が異文化を理解することにより、自分の価値を知り、多様な価値観を受け入れて、よりよい人間関係づくりを実践できる態度を養うこと、家庭・地域との連携を密にし、地域全体で人権尊重の精神を育むことなど、「外国人」を柱にした人権教育の推進は、県下で先進的な取り組みである。この成果を広く知らしめることで、本県における人権教育のさらなる推進に寄与すると考える。

3. 取り組んだ人権課題について

取り組んだ人権課題（該当するものに○印。複数選択可。うち、最も主要な人権課題1つに◎をつけること。）※人権教育研究推進事業公募要領（別紙）「2. 事業の内容」を必ず確認すること。

①子供	○
②女性	
③高齢者	○
④障害者	○
⑤同和問題	
⑥アイヌの人々	
⑦外国人	◎
⑧- 1 HIV 感染者等	
⑧- 2 ハンセン病患者等	
⑨刑を終えて出所した人	
⑩犯罪被害者等	
⑪インターネットによる人権侵害	○
⑫北朝鮮当局による拉致問題等	
⑬性的指向、性自認	
⑭その他（ ）	

・人権課題「外国人」について取り組んだこと

「異文化理解」について、重点的に取り組んだ。児童が、異なる習慣・文化を持った人々と共に生きていくための素地を養っていきけるよう実践を進めた。実践は、以下の2点である。

まず、委員会活動を中心に様々な国の文化を紹介する活動に取り組んだ。例えば、放送委員会では様々な国の挨拶を調べ、毎朝の放送で紹介したり、体育委員会では様々な国の遊びについて調べ、遊んでいる様子を動画にして紹介したりした。このように、食事、掃除、遊びなど児童にとって身近なジャンルについて様々な国の情報を伝え、興味関心を高めることで、異文化理解の促進を図った。

次に、人権週間に合わせて全校集会を行い、世界人権デーを紹介することで、異文化理解の必要性について考えた。近い将来、様々な文化を持つ国の人々と協働する機会は今以上に増えていく。その際に、コミュニケーションが重要になること、コミュニケーションをとるためには相手の文化を知る必要があることなどを伝えた。そして、どの国にも「おはよう」「ありがとう」「さようなら」といった人とつながる言葉があることにふれ、外国ではどのように話すのかを知ったり、話したりする活動を行った。とくに、本校に在籍し

ているブラジル国籍の児童が、「おはよう」「ありがとう」「さようなら」をポルトガル語で話し、全校児童も実際に使ってみる場面を設定した。このような機会をもったことで、本校に複数在籍するブラジル国籍の児童に、ポルトガル語で話かける児童の姿が増えていった。

4. 調査研究の内容等

○調査研究の内容

①自己肯定感を高め、自他を尊重する授業の展開

仮説：仲間との協働の中で、自分の大切さや相手のよさを知ったり、自分が認められている、役に立っていることに気づいたりする活動を展開することで、自己肯定感が高まり、相手を尊重する気持ちや態度を養うことができるだろう。

②人権意識を高める体験活動の工夫

仮説：多様な立場の人から学ぶために地域へ出かけたり、ゲストティーチャーとして講師を招いたりするなど活動や体験を通して問題の解決を目指し、探求することで、生きた知識や技能を身に付けることができるだろう。

③家庭・地域における人権意識の向上

仮説：保護者や地域の方に授業を公開したり、親子で人権に関する研修を受けたりすることを通して、ともに人権について正しい理解と認識を深めることができれば、家庭・地域における人権意識が高まるだろう。

④異文化理解の促進

仮説：日本の言語や文化に加えて、多様な言語や文化、価値観について理解し、互いを尊重しながら学び合うことができれば、異文化理解や多文化共生の考え方や態度が根付くだろう。

* 県教育委員会としての取組み

鯖江市教育委員会と連携し、授業研究や研究会などに継続的に関わり、指導助言を行う。「異文化理解」に関する情報提供や外部機関との接続を支援する。

○実施方法

①自己肯定感を高め、自他を尊重する活動の展開

・ 授業での対話的な学びの充実やコミュニケーション活動の工夫（全学年）

どのような授業においても、自分の考えや思いを持ち、ペアやグループでの話し合いなどを通して表現・交流する活動を積極的に取り入れた。これにより、考え方の多様性に気づくとともに、自分の意見を聞いてもらえる安心感を持てたり、互いの良さを見つけあえたりできるよう目指した。また、学習形態も工夫し、対話的な学びの充実も取り入れた研究授業も実施した。

・ ポジティブ教育の推進（全学年）

自尊感情を高めるポジティブ教育の推進を図るために、発達段階や校内行事との関連をふまえた学年ごとの計画表を作成し実践した。全クラスが指導主事訪問や学校公開日

において公開授業を実施した。

・「いいところ探し」や「ありがとうメッセージ」の交流（全学年）

各学級の朝の会や帰りの会などの時間を利用して、よいところを伝え合う活動を行った。全員の児童が対象となるよう、日によって伝える児童を決めて取り組んだ。また、縦割り活動や異学年交流の振り返りとして、上級生に「ありがとうメッセージ」を送ったり、お互いにメッセージを交換したりする活動を行った。

②人権意識を高める体験活動の工夫

・各学年の体験的な学習

各学年で以下のような体験的な学習に取り組んだ。

地域の商店や企業と連携した「鳥羽の町たんけん」（1・2年）

ALTと連携した外国語活動（3年）

社会福祉協議会と連携した福祉学習（4年）

県土木建築協会と連携した土木職業学習（5年）

弁護士を活用した「いじめ防止授業」（6年）

地域の学校ボランティアを招待する「ありがとう集会」（全校）

このように、いろいろな立場の人の話を聞いたり、実際に体験したりした。多種多様な立場、世代の人たちとの体験的な活動によって、様々な価値観や考え方に触れ、自他ともに大切に行動できる態度が身に付くことを目指した。

③家庭・地域における人権意識の向上

日頃地域でお世話になっている学校ボランティアの方を招いた「ありがとう集会」を5年ぶりに実施した。学校ボランティアの方々に感謝の気持ちを伝えるとともに、インタビューなどを通してボランティアの方々の思いや願いにふれることができた。

学校公開日では、ポジティブ教育の授業を全クラスで公開した。道徳とは違った自尊感情や他者理解に焦点を当てた授業を保護者にも公開することで、家庭への啓発活動にもつなげた。また、人権をテーマにした親子人権講演会を実施した。具体的には、絵本作家を招き、親子絵本集会を行った。他者との違いに悩む登場人物が、自分らしさの大切さ、人とのつながりの大切さに気付く物語の中で、人権意識への気付きにつなげた。

④異文化理解の促進

・人権週間を活用した外国籍児童との交流（全学年）

人権週間に行った全校集会で、世界人権デーを紹介し、異文化理解の必要性について考えた。また、本校のブラジル籍児童が「おはよう」「ありがとう」「さようなら」をポルトガル語で話し、全校児童も実際に使ってみる場面を設定した。

・児童の活動や外国の文化等を伝達する人権教育ブースの常設（全学年）

委員会活動に外国の文化を紹介する活動を組み込むことで、食事や遊び、あいさつ・掃

除など外国の様々な文化を紹介することができた。例えば、放送委員会は毎朝の放送の中で「様々な国のあいさつ」を伝える活動に取り組み、たくさんの国のあいさつを児童に伝達した。また、保健委員会では、様々な国の保健室や病気・医療機関のことについて伝達した。学校内の掲示板などを用いて、委員会で調べた内容を掲示し、児童がいつでも見ることができるようにした。

・JICA 国際協力出前授業（5年）

JICA の協力を得て、国際協力出前授業を行った。ブラジルでの協力隊経験者で、現職の小学校教員でもある講師を招き、児童たちにブラジルの文化や人々の考え方、外国の人とともに生活する楽しさや魅力について知るきっかけを提供できた。

○検証・評価・改善・普及

以下は、令和6年6月と11月に実施したアンケートの中から、人権に関する項目を抽出したものである。3年生以上を対象として、「とてもそう思う」「そう思う」と回答した児童の割合になっている。なお、2～4の項目は4年生以上の回答となっている。

項目	6月	11月
1 外国のことに興味を持つことができましたか。	87.9%	87.9%
2 外国のことを学ぶことは大切だと思いますか。	82.8%	93.7%
3 外国のことをもっと知ろうと考えることがありますか。	74.5%	82.3%
4 外国のことを進んで調べることができましたか。	60.4%	75.4%
5 自分には良いところがあると思いますか。	82.1%	83.7%
6 相手の立場に立って、思いやりのある言葉づかいや行動ができましたか。	92.3%	93.0%
7 自分や人を大切にしていますか。	96.4%	96.4%
8 自分のクラスは、だれと同じグループになっても、活動できると思いますか。	83.4%	88.5%
9 自分のクラスは、それぞれの意見や考えを認め合っていると思いますか。	92.5%	92.4%

この結果から、児童が外国の様々な文化について知る機会を得たことで、外国のことに興味を持たれた児童が増えたことが分かる。また、外国の文化を知る必要性や外国の文化を考えようという態度面、そして進んで調べることができるという技能面についても顕著な変化が見てとれる。様々な文化を知りたいという思いをきっかけに、さらに異文化理解や多文化共生の考え方や態度が養われていくものと考えられる。

5以降は自己肯定感や人権意識に関する項目になっている。これらの項目については、残念ながら数値的に顕著な変化は見られなかったが、児童の活動後の振り返りや日ごろの活動の様子を見ると、「自分にはよいところがあると思うか」「相手の立場に立って、思

いやりのある言葉づかいや行動ができたか」などの項目では、自分自身に対して厳しめの評価をしている児童が少なくないことが分かった。これは、それぞれの活動や取組において、そのねらいや目的が児童には明確に捉えられていなかったことや、回数や時間の不足に原因の一端があると考えられる。その他の項目とも合わせて、今後の課題となった。

また、本年度の調査研究の成果として、次のようなことがあげられる。

- ・各学年において、対話的な授業を行うことができ、児童がお互いに多様な考えを受け入れ合いながら授業を進めることができた。

- ・様々な体験活動を計画的に実施し、多様な価値観を児童に提供することができた。事前指導を含め、計画的な体験活動の実施は、児童の興味関心を高めて行動変容につなげることができた。

- ・人権教育の取組は、学年ブログという形で全家庭に配信しており、家庭への働きかけや啓発活動につなげることができた。

一方、課題として次のようなことがあげられる。

- ・児童の人権意識を高めることで、様々な人権課題に気づくことができるようになったが、その解決に向けて行動できてないと感じている児童もいた。

- ・異文化理解について、外国の文化を知ることは十分にできたが、実際に外国にルーツを持つ人々との交流は十分にできなかった。

今年度も人権教育の取組をリーフレットにまとめた。市内の学校においては、取組の成果を具体的に紹介し、各校の人権教育に取り組んでもらえるように働きかける。

また、研究活動の反省として、本校職員から、LGBT などの新しい人権課題への理解促進を図ること、異文化理解のさらなる促進を図ること、一人も取り残さない学級・学校経営への理解促進を図ることなどが課題として挙げられた。今年度の課題を専門的な知見からまとめ・分析できるよう、参考文献を購入した。

この2年間の取組を生かし、今後も、子ども主体の授業について研究や断続的に増加が予想される外国籍児童への理解・対応力を高めていきたい。

これからも、保護者や地域にも学校の人権教育の取組を積極的に発信し、親子で人権について積極的な理解と認識を深めていけるよう取り組んでいきたい。

5. 人権教育にかかる年間計画

人権教育年間指導計画(第1学年) 鳥羽小学校

【学年の目標】

友達と仲よく助け合おうとする態度を育てる

①女性 ②子ども ③高齢者 ④障がい者 ⑤同和(部落差別)問題 ⑥外国人 ⑦インターネットによる人権侵害 ⑧拉致問題 ⑨LGBTQ ⑩その他様々な人権
(アイヌの人々・HIV感染者やハンセン病患者、新型コロナウイルス感染症等・刑を終えて出所した人・犯罪被害者等)

月	教科等	題材・主題名・活動	ねらい	関連する人権課題
4	生活(1)	どきどきわくわく1ねんせい	名刺交換をしてお互いのことをよく知り、よい人間関係を促進する	②
	音楽(1)	うたっておどってなかよくなろう	友達と一緒に歌ったり体を動かしたりする楽しさを感じ取らせる	②
	国語(3)	どうぞ よろしく	相手によく分かるように、自分の名前などを書いたカードを作り、自己紹介をすることで、よい人間関係作りを促進する	②
5	国語(3)	ききたいな、ともだちのはなし	絵を見ながら、型に合わせて尋ねたいことを見つけて質問したり、答えたりしながら、交流を深める	②
6	生活(4)	がっこうにいるひと なかよくなろう	握手大作戦をして、いろいろな人が学校で働いていることを知る	⑩
	道徳(1)	はりきりいちねんせい	よいことと悪いことを区別をし、自分がよいと思ったことを進んで行おうとする態度を養う	⑩
7	道徳(1)	はやとのゴール	相手のことを考えて、優しく接することの大切さがわかり、親切な行為をしようとする態度を養う	②
	国語(4)	すきなものなあに	「すきなもの」と「その理由」をその順序で1文で書き、書いたものを読み合い、感想を伝え合って、交流を深める	②
9	道徳(1)	じゃんけんぼん	自分の好き嫌いにとらわれずによく考えて行動することのよさに気づき、誰に対しても公正、公平に接しようとする心情を育てる	②⑩
11	道徳(1)	くりのみ	身近な友達と仲よく活動し、助け合うことの大切さに気づき、困っているときには互いに助け合おうとする思いやりの心情を育てる	②
	生活(2)	おもちゃランド	年長さんを招待し、温かく迎えることで、思いやる心を育てる	②
	学級活動(1)	ひまわり教室	友達の物を勝手に持ち帰ったり、無理やりもらったりする行為は犯罪であることを認識し、節度ある行動をする態度を育てる	⑩
12	道徳(1)	はしの上のおおかみ	親切にしたときの気持ちよさを知り、誰に対しても思いやりの心をもって接しようとする心情を育てる	②
1	国語(2)	ものの名まえ	客と店の人になって売り買いのやり取りをし、互いの理解を深める	②
2	生活(5)	もうすぐ1ねんせい	新1年生を温かく迎えようとするので、他人を思いやる心を育てる	②
3	全校集会(1)	6年生を送る会	お世話になった6年生に感謝の気持ちを伝え、よい人間関係作りを促進する	②⑩

()は時間数

人権教育年間指導計画(第2学年) 鳥羽小学校

〔学年の目標〕

友達と仲よく助け合おうとする態度を育てる

①女性 ②子ども ③高齢者 ④障がい者 ⑤同和(部落差別)問題 ⑥外国人 ⑦インターネットによる人権侵害 ⑧拉致問題 ⑨LGBTQ ⑩
その他様々な人権(アイヌの人々・HIV感染者やハンセン病患者、新型コロナウイルス感染症等・刑を終えて出所した人・犯罪被害者等)

月	教科等	題材・主題名・活動	ねらい	関連する 人権課題
4	音楽(1)	みんなでいっしょにあかるいこえでうたいましょう	日本語の挨拶を手話を使って表現し、さまざまな子供たちと触れ合おうとする	②④
	道徳(1)	助け合う友だち	友達と助け合い、よりよい関係を築こうとする心情を育てる	②
5	特別活動(1)	エンカウンター	お互いを知り、よりよい人間関係づくりを促進する	②
6	国語(3)	スイミー	仲間で協力して一つのことをやりとげる心情を養う	②⑩
	道徳(1)	みんなのことを考えて	自分勝手な行動が人の迷惑になることに気付かせ、決まりや約束を守ろうとする心情を育てる	⑩
	校外学習(5)	みんなで使う場所のきまり	公共施設の使い方やきまりを守る心を育てる。	②
	生活(2)	町たんけん	身近な地域の特色や人々について理解し、自分の地域に対して愛情をもつ	③④⑥⑩
7	学級活動(1)	ひまわり教室	「してはいけないこと」について考え、行動しようとする	⑩
9	学校行事	体育大会	お手伝いを体育大会の種目に取り入れ家族への理解を深める	①②③④⑥
	道徳(1)	よいと思うことをすすんで	よいと思うことを進んで行うことのすがずかしさに気付き、小さなことでもよいことをすすんでしようとする意欲を高める	②
11	国語(3)	お手紙	友達が喜ぶお手紙を書き、よりよい人間関係づくりを促進する	②
	道徳(1)	あいてのことを考えて	相手のことを考えて、親切な行為をすることの大切さが分かり、相手のことを考えて親切なことをしていこうとする態度を養う	②
	生活(2)	おもちゃランド	1年生を招待し、温かく迎えることで、思いやる心を育てる	②
1	体育(4)	器械運動	友達の動きを見て教え合い、互いに向上しようとする心情を養う	②
2	学活(3)	みんなできめよう	自分の意見を言ったり、友達の意見を聞いたりして、仲よく話し合いに参加する	②
3	全校集会(1)	6年生を送る会	お世話になった6年生に感謝の気持ちを伝え、よい人間関係作りを促進する	②

()は時間数

人権教育年間指導計画(第3学年) 鳥羽小学校

〔学年の目標〕

お互いに協力し、人のためになる事をしようとする態度を育てる

(1)女性 (2)子ども (3)高齢者 (4)障がい者 (5)同和(部落差別)問題 (6)外国人 (7)インターネットによる人権侵害 (8)拉致問題 (9) LGBTQ (10)その他様々な人権(アイヌの人々・HIV感染者やハンセン病患者、新型コロナウイルス感染症等・刑を終えて出所した人・犯罪被害者等)

月	教科等	題材・主題名・活動	ねらい	関連する人権課題
4	特別活動(1)	ソーシャルスキル	お互いを知り、よりよい人間関係づくりを促進する	②
	道徳(1)	わかり合える友	相手の身になって友達と仲よくし違いを認め合い、望ましい人間関係を築いていこうとする心情を養う	②
5	道徳(1)	支えられている命	自分の命がたくさんの支えの中であることを知り、命ある全てのもの大切にしようという態度を養う	②④
	社会(12)	「学校のまわり」	身近な地域の特色やよさを理解し、自分たちの生活舞台である身近な地域に対する誇りと愛情をもつ	③④⑥
6	道徳(1)	ちがいにとまどわないで	外国の人々との間にある言語や文化、考え方の違いについて考え、世界の人々と理解し合おうとする心情を育てる。	②⑥
9	道徳(1)	正しいことは、はっきり言おう	間違っていると感じる物事を見逃さず、よいと思うことを進んで行おうする態度を育てる	⑩
	学校行事	体育大会	個人個人の能力の違いを認め合いながら、励まし合って練習に取り組む態度を養う	②⑩
10	体育(9)	ラインサッカー	チーム内で声を掛け合って、仲良くゲームに参加する	②⑩
	道徳(1)	言われたときの心	相手を思いやる心の大切さに気付き、言葉を適切に使おうとする心情を育てる	②
	総合的な学習の時間(6)	外国の文化を知ろう	外国の人々の考え方や文化について理解を深め、尊重する態度を育てる	⑥
11	道徳(1)	だれもが住みやすいくらし	障害の有無にかかわらず誰もが住みやすい社会の大切さに気付き、誰に対しても分け隔てなく接しようとする心情を育てる。	④⑥
2	全校集会	ありがとう集会	お世話になった地域の方に感謝の気持ちを伝え、身近な人に対する愛情をもつ	②⑩
3	全校集会(1)	6年生を送る会	お世話になった6年生に感謝の気持ちを伝え、よい人間関係作りを促進する	②⑩

()は時間数

人権教育年間指導計画(第4学年) 鳥羽小学校

〔学年の目標〕

お互いに協力し、人のためになる事をしようとする態度を育てる

①女性 ②子ども ③高齢者 ④障がい者 ⑤同和(部落差別)問題 ⑥外国人 ⑦インターネットによる人権侵害 ⑧拉致問題 ⑨LGBTQ
⑩その他様々な人権(アイヌの人々・HIV感染者やハンセン病患者、新型コロナウイルス感染症等・刑を終えて出所した人・犯罪被害者等)

月	教科等	題材・主題名・活動	ねらい	関連する人権課題
4	学級活動(1)	4年生になって	4年生としての自覚をもたせ、仲良く協力し合う学級集団を作らせる	②
5	国語(3)	思いやりのデザイン	相手の目的に合わせて、どう見るとわかりやすいのかを考えながらデザインすることの大切さに気づかせる	⑩
6	道徳(1)	おばちゃん、がんばれ	自分の命は家族やたくさんの人たちに守られ、かけがえないものとして待ち望まれていたことに気づき、自他の命が最も大切であるとする判断力を育てる	③
	道徳(1)	心の信号機	相手の気持ちを思いやり、自分にできることは何か考えて進んで親切な行いをしようとする判断力を養う	⑩
7	道徳(1)	友達が泣いている	いじめを許さないという意志をもち、正しいと思うことを主体的に判断し、自信をもって実行しようとする態度を養う	②
9	道徳(1)	つながっている日本と外国	日本と他国の共通点や相違点を見つけることを通して、他国に親しみを持とうとする態度を育てる	⑥
10	体育(2)	リズムダンス(フォークダンス)	男女間で協力し合い、よい人間関係をつくる	①②
	総合(10)	点字・手話・車椅子体験	点字・手話・車椅子体験を通して、障がいがある人と共に生きようとする心を育てる	③④
11	道徳(1)	ヘレンケラー物語	公正、公平な社会の実現を目指す大切さに気づき、誰に対しても分け隔てなく接しようとする判断力を育てる	④
12	学級活動(1)	ひまわり教室(万引き)	人の物やお店の物を黙って持ち出すことが犯罪行為であることを理解させる	⑩
1	音楽(1)	日本の音楽に親しもう	日本の節やリズムの特徴を感じ取って親しむことができる	⑩
	学級活動(2)	夢へのパスポート(自分の成長に夢をもつ)	今までの成長を振り返り、周囲への感謝の気持ちをもつとともに、より良く成長していこうとする心情を育てる	②⑩
2	全校集会	ありがとう集会	お世話になった地域の方に感謝の気持ちを伝え、身近な人に対する愛情をもつ	②⑩
3	全校集会(2)	6年生を送る会	お世話になった6年生に感謝の気持ちを伝え、よい人間関係作りを促進する	②⑩

()は時間数

人権教育年間指導計画(第5学年) 鳥羽小学校

【学年の目標】

人の立場を尊重し、信頼し助け合おうとする態度を育てる

①女性 ②子ども ③高齢者 ④障がい者 ⑤同和(部落差別)問題 ⑥外国人 ⑦インターネットによる人権侵害 ⑧拉致問題 ⑨LGBTQ ⑩その他様々な人権(アイヌの人々・HIV感染者やハンセン病患者、新型コロナウイルス感染症等・刑を終えて出所した人・犯罪被害者等)

月	教科等	題材・主題名・活動	ねらい	関連する人権課題
4	学級活動(1)	高学年としての心構え	よりよい学級を目指すために、個々の役割を考え、互いに助け合う態度を育てるとともに、高学年としての自覚をもたせる	②
6	道徳(1)	思いやりの心	相手の置かれている状況を自分自身に置き換えて考え、思いやりの心をもち、温かく親切に接しようとする心情を育てる	②③④
	道徳(1)	不正、公平、社会主義	差別をすることや偏見をもつことが間違っていることについて改めて理解し、誰に対しても公正、公平な態度で接しようとする態度を養う	②④⑩
9	道徳(1)	さわやかなマナー	周りの人々の思いやり、深く考えて場をわかまえ行動を取ろうとする態度を育てる	②③④
10	総合(6)	宿泊学習に向けて	集団行動を通して、仲間の存在を認め、お互いに助け合おうとする態度を育てる	②
	総合(2)	環境保全学習	環境保全に関わる人々の仕事や考えを知り、自分でも行動できる力を育てる	⑩
	国語(3)	たがいの立場を明確にして、話し合おう	グループ討論を行い、発言したり意見を聞いたりして、相手の立場を受け入れる	②
	道徳(1)	かけがえのない命	自分の生命が多くの支えやつながりの中で守られている尊い生命出あることを理解し、自分だけでなく全ての生命を大切にしようとする情を養う	②
	道徳(1)	友との絆	どんなときでも互いに信頼することが大切であり、多様な表現で友情関係を深めようとする実践意欲を高める	②⑩
11	道徳(1)	相手の立場になって	年齢や性別、障害のあるなし、国籍などに関係なく、誰もが使いやすいように工夫する考え方について理解を深め、相手の立場に立って親切に行動しようとする態度を養う	③④⑥⑨⑩
12	理科(7)	人のたんじょう	生命の誕生の学習を通して、生命の尊さを理解する	①
1	社会(1)	社会を変える情報	誤った情報は、人を傷つけることがありえることを理解する	⑦
2	全校集会	ありがとう集会	お世話になった地域の方に感謝の気持ちを伝え、身近な人に対する愛情をもつ	②⑩
	総合(5)	6年生を送る会の準備	自分の役割を自覚し、仲間と協力して会を運営しようとする	②
3	全校集会	6年生を送る会	お世話になった6年生に感謝の気持ちを伝え、よい人間関係作りを促進する	②
	学級活動(1)	ひまわり教室(インターネットのマナー)	インターネットの正しい使い方やマナーを理解する	⑦

()は時間数

人権教育年間指導計画(第6学年)

鳥羽小学校

【学年の目標】

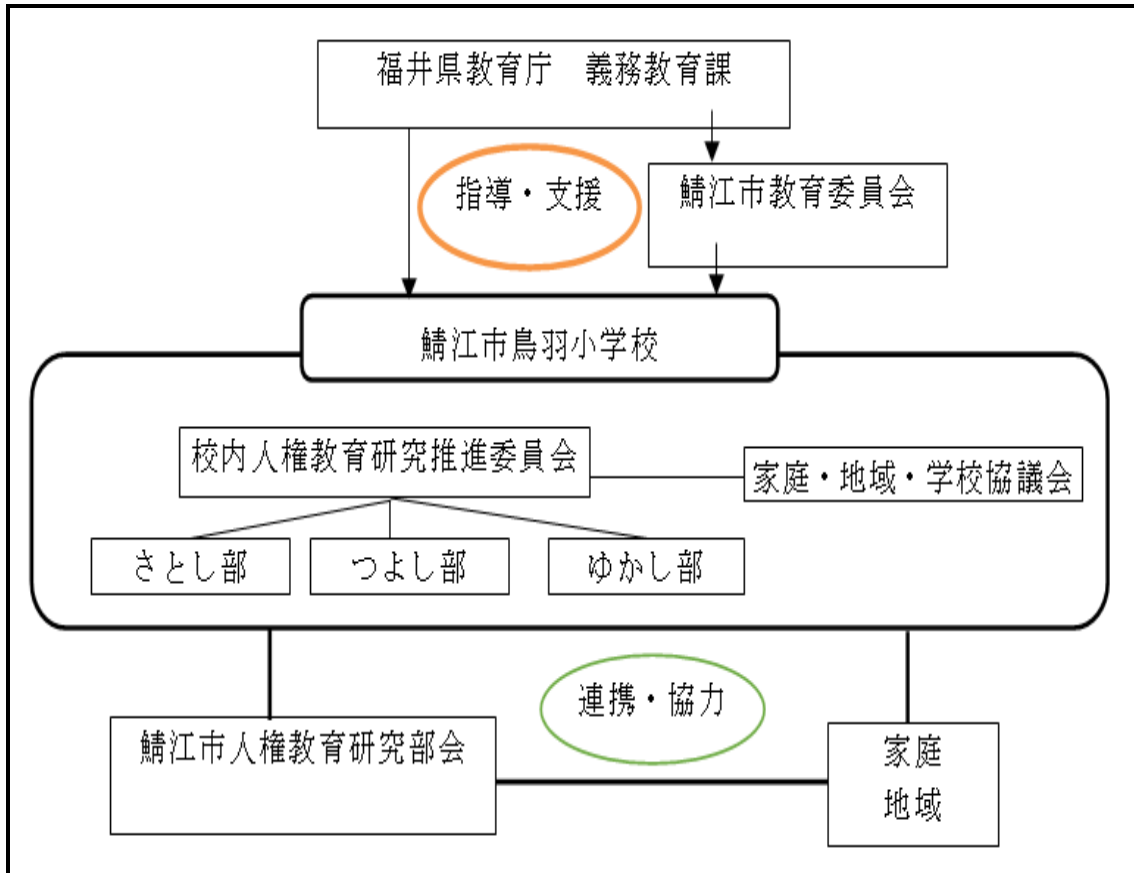
人の立場を尊重し、信頼し助け合おうとする態度を育てる

①女性 ②子ども ③高齢者 ④障がい者 ⑤同和(部落差別)問題 ⑥外国人 ⑦インターネットによる人権侵害 ⑧拉致問題 ⑨LGBTQ
⑩その他様々な人権(アイヌの人々・HIV感染者やハンセン病患者、新型コロナウイルス感染症等・刑を終えて出所した人・犯罪被害者等)

月	教科等	題材・主題名・活動	ねらい	関連する人権課題
4	特別活動(2)	グループエンカウンター	自他の権利を尊重し、相手の立場に立って物事を考え、行動する。	⑩
5	道徳(1)	社会のために尽くす(マザーテレサ)	働くことや社会に対し奉仕することの意義を理解し、公共のために役立つことへの意欲を高める。	④
5	社会(3)	基本的人権の尊重	自他の権利を尊重し、相手の立場に立って物事を考え、行動できる児童を育成する。	②③④⑨⑩
7	道徳(1)	分かり合う喜び	自分とは異なる立場の意見にも謙虚に耳を傾け、広い心でお互いを認めようとする態度を養う。	②
9	道徳(1)	真の友情	互いに信頼し、互いに高め合いながら、友情を深めようとする態度を育て、本当の友達ならどうするかについての判断力を育てる。	②
10	道徳(1)	自分の心に誠実に	自分の弱い心からくる過ちに気付き、誠実に生きようとする心情を養う。	②
	社会(1)	身分制度の改革	基本的人権についての認識を深め、これをみんなの力で守り抜いていこうとする態度を養う。	⑤
11	特別活動(1)	いじめ防止教室	弁護士を活用して、いじめを未然に防ぐための考え方を理解し、いじめをしない、させないために行動できる力を育てる。	②⑥
	社会(1)	女性や母親の権利	誰もが持っている幸福に暮らす権利を大切にし、これを侵さないようにする態度を育てる	①
12	特別活動(2)	地域のお年寄りへの年賀状書き	地域のお年寄りの方々に敬う。	③
1	道徳(1)	つながる命	生命のかけがえのなさを理解し、生命を尊重しようとする心情を育てる。	②
2	全校集会	ありがとう集会	お世話になった地域の方に感謝の気持ちを伝え、身近な人に対する愛情をもつ	②⑩
	社会(1)	拉致問題	自他の生命の尊さを理解し、みんなの力で命をおびやかすものを排除しようとする態度を養う。	⑧
	特別活動(1)	防犯教室(1)	薬物の乱用によって心身の健康に深刻な影響を及ぼすことを理解できるようにする。	⑩
	社会(5)	日本とつながりの深い国々	自他の権利を尊重し、相手の立場に立って物事を考え、行動できる児童を育成する。	⑥
3	全校集会(1)	6年生を送る会	お世話になった下級生に感謝の気持ちを伝え、よい人間関係作りを促進する。	②⑩

()は時間数

6. 推進体制（都道府県・指定都市教育委員会を含む）



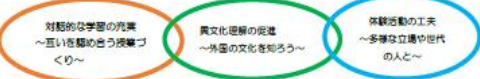
○関連資料

鳥羽小学校 人権教育の取組

令和6年度 文部科学省・福井県教育委員会指定「人権教育研究指定事業」 発行日 R7.3.14



1 はじめに
 加速度的に変化する情報社会の中、人権課題も広範囲に及びています。そこで、「自己肯定感や人権意識の育成」をもとに、互いに尊重し合える児童の育成を図ってきました。とくに、「異文化理解」にも焦点を当てました。本校では、ブラジルをはじめ東南アジアの外国籍児童の転入が年々増えてきていますが、異文化理解や多文化共生という観点からみると、ポルトガル語などの外国語や異文化などについてはほとんど知識がなく、学校生活を共にしながらも、お互いのことについて理解が深んでいない現状があります。そこで、よりよい社会をつくるために、児童たちに異文化を尊重する態度や異なる習慣・文化を持った人々と共に生きていくための素地を培ってほしいと考えました。この学びは、外国人だけでなく多様な年齢や性別を超えて児童が学校生活や日常生活の中で、自他を認め合いよりよい人間関係を築く態度を育むことが期待できます。ここの紹介が、各校での人権教育の参考にできれば幸いです。
 校長 船川 栄典



鯖江市鳥羽小学校 〒916-0017 福井県鯖江市神明町4丁目1-38
 Tel 0778-62-0045 E-mail toba@esbaes.ed.jp

2 異文化理解に向けて 児童委員会での発表や JICA 出前授業

保護委員会



いろいろな国の慣習を調べたり、保護委員の意見なども調べました。

JICA 出前授業



ブラジルの文化や行事、書籍について知ることができました！



移居カルタをしました。移居の人の生活や思いを知ることができました。

人権週間

世界人権デーについて紹介し、外国の文化を知ることの大切さを学びました。また、外国籍児童と一緒に、ポルトガル語を聞いてもらいました。

世界人権デーについて知り、外国人のことを知る大切さについて考えたりしました。



ボンジョア！
 (おはよう)
 チャオ！
 (こんにちは)
 オブリガード！
 (ありがとう)



人権週間で外国人のことを学びました。

鳥羽小学校 人権教育の取組

4 自己肯定感や人権意識の育成に向けて

<ありがとうメッセージ> 体育大会などの縦割りの行事の際に、「ありがとう」メッセージで交流しました。自尊感情を高めることや他者理解に焦点を当てた授業を、保護者にも公開しました。



ありがとうメッセージを送りました。



人によって、いろいろと考え方が違っていてもいいな～。こんな見方もあるんだな～。

<体験活動> これまでの活動を人権教育の視点からとらえ直し、取り組みました。<弁護士によるいじめ予防的授業> 弁護士の方に来ていただいて、憲法に基づいていじめや人権について考えました。

小さなことでも、いじめにつながるものが分りました。



オンラインで、複数の小学校とつながり、同じ課題について意見交換しました。

<縦割りの活動> 様々な場面で、異学年での交流をしました。



招待した園児さんたちはとても喜んでくれました。友達とも協力して楽しくできました。



なかよしグループで、クイズに挑戦！

1年生がどうしたら楽しく遊べるかを話し合っ、活動を決めました。



5 高齢者や障がい者に対する理解に向けて お年寄り体験、障がい者スポーツ体験など様々な体験を通して、それぞれの立場の人の思いを考えました。



目が見えない人がわかるように球の動きを音で表すなど、様々な工夫があって、平等に楽しめているなと思いました。



少しの障害でも怖かったけど、手をつないで助けてもらったおかげで、安心して歩きました！